

西日本豪雨災害のジェンダー・ 多様性の視点からの課題

公益財団法人ジョイセフ

小野美智代



ジョイセフ
JOICFP

世界の妊産婦と女性を守る



「3.11.後」から見えてきたこと

- **妊産婦・女性への視点の不足**

- 緊急支援/復興支援

- **根深い男女格差問題**

- 家父長制度・ジェンダー規範

- 女性自身の意識

- **「復興格差」と置き去られる女性たち**

- 新たな格差-経済格差・情報格差・環境格差

- 心理社会的支援の必要性

求められた支援とは

- **「女性を置き去りにしない」 支援**

- 孤立させない・放置しない

- **「女性とともに歩む」 支援**

- 気持ちに寄り添う・息長く続ける

- **「女性の意識を解放する」 支援**

- 気づき・自信・意欲を生み出す





東日本大震災→熊本地震の経験



避難所・避難先では 女性や子どもを狙った性被害・性暴力、DVなどが 発生するリスクが高まります

東日本大震災女性ネットワーク調査チーム 2015『東日本大震災「災害・復興における女性と子どもへの暴力」に関する調査報告書より

自分を大切にしてください

単独行動はしない
ようにしましょう！

性的な嫌がらせやいたずらなど
尊厳を傷つける行為も犯罪です

被害をうけたら相談を！



周囲の目と支えがたよりです

見ないふり・知らないふりをせず
助け合いましょう

ストレスをためず
不安な気持ちも声
に出しましょう

西日本豪雨によって生じた、様々な悩みや、女性に対する暴力に関する
相談を下記の窓口でお受けしています。

だれにも相談できずに、ひとりで悩んでいませんか？

ひとりで悩まず、お気軽にご相談ください。

相談機関

※相談は無料です。秘密は守られます。

緊急時は110番へ

倉敷市男女共同参画推進センター

086-435-5670

岡山県女性相談所

086-235-6060

★DV 夜間電話相談

086-235-6101

岡山県男女共同参画推進センター

086-235-3310

男性相談員による男性のための電話相談

086-221-1270

LGBTの方のための相談電話

086-435-5670

火～土 (9:00～17:00)

※7月17日(火)は振替により休館

月～金 (9:00～16:30)

月～金 (16:30～20:00)

火～土 (9:30～16:30)

毎月第2金曜日(17:00～20:00)

火～土 (9:00～17:00)

A photograph of a disaster-stricken area. In the foreground, there is a large pile of debris, including rocks, mud, and twisted metal. To the left, a traditional Japanese wooden building is partially visible, with laundry hanging outside. In the background, there is a steep, forested hill. The overall scene is one of destruction and desolation.

被災母子、女性の 声を聴きました

岡山県倉敷市真備町 かねこ助産院



広島県呉市天応町 JA天応



宇和島市吉田町で被災した夫妻



住居の1階が天井まで浸水



宇和島市三間地区で被災した母親



市の保健師の葛藤



被災3県共通の課題

- 行政も保健医療従事者も母子の避難場所や状況を把握できていない(安否確認のみ)
- 若い女性は避難所に行かない
- 豪雨や土砂災害で車を失った被災者が多く移動が困難
- 行政が避難所、特に被災高齢者の対応に追われている

【女性が抱える諸問題】

- 女性と母子が必要な物資や支援にアクセスしにくい →がまんをしている
- 長引く避難生活や今後の生活への不安、疲労、孤立化 →うつ、虐待
- 育児や子どものトラウマに対する母親のストレスと不安
- 今後起こりうるDV、性被害

入浴できない女性のために



子どもの託児、相談も



避難所にカウンセリングブース設置



7/26(木)

一般社団法人
岡山県助産師会が
健康相談にお伺いします。

日時：8月2日(木) 18:00～20:00

- 母乳育児や子育ての相談
- 女性特有の健康相談
- お子様やご家族のこころの相談
- 体調が気になる方の相談
- そのほか様々な健康問題について ...

■ 授乳服など育児用品の提供ができます。
必要な方は遠慮なくお申し出ください!!

＜岡山県助産師会 事務局＞
(一社) 岡山県助産師会 会長：東森 二三子
住所：〒704-8141 岡山市東区下阿知 889
電話：085-946-0891 FAX：085-946-1778
Eメール：mint@higashimori-f.com
<http://www.okayama-joshinshijie>

一時保育と集う場で母親を応援



西日本豪雨 親子の集いの場 失う

西日本豪雨から1カ月半が過ぎたが、親子向けのオープンスペースや公園など子育て世代が集う場を失ったままの地域も少なくない。「自分より大きな被害を受けた人もいるから」と、不安を周囲に打ち明けられない母親もいる。被災後の子育ては孤立しがちだ。地域が再生するまで長いスパンで、母親たちが心の内を語り合える場が求められている。

(福田彩乃)

被災地の母親に
不安語れる場を

もつと大きな被害を受けた人いる…自分たちだけ気分転換 気が引ける…

今もあちこちに土砂が積まれた呉市安浦町。久しぶりに会えたママ友と言葉を交わすうち、4歳と2歳の娘を育てる女性(38)の目から涙があふれた。「しんどい思いを我慢しなくてもいいんだって思えて…。女性の自宅は半壊し、子どもを守らなくてはと気が張っていた。家を失った人もいると思うと、悲しい気持ちに言葉にできなかった。

女性が訪れたのは、同町の安浦会館で被災後から開かれている「安浦子どもひろば たけちまる」。親子でくつろげて、絵本やおもちゃなど支援物資も受け取



官民連携・積極的な声掛け必要

れる。2歳の長男を育てる割方蓮花さん(26)は同町Ⅱがボランティアで始めたスペースだ。割方さんは「私も子どもの遊び場や他のお母さんたちと話せる場所がなくて困っていた。子育て世代同士だからこそ、話せることもある」と力を込める。

同町では4人が命を落とした。土砂崩れや建物の浸水が多発。町唯一の地域子育て支援センター「きらき」に遭い、被災直後から閉鎖している。再開を目指す10月ごろまでは、たけちまるが数少ない親子の集いの場となる。

広島県によると、被災した親子の居場所づくりや、託児などの活動は現在、広島や呉市の少なくとも7カ所で行われているという。ただ、ボランティアの力に頼るところも多い。運営を続けるには、活動資金や場所、スタッフの確保が課題に挙がる。

呉市天応地区では、市民有志「子どもおたすけ隊」が7月下旬から活動。しかし、借りている会場は8月末までの約束だ。スタッフの山本さなえさん(50)は、次の会場の準備に追われている。いまは天応地区以外の呉市内から集まった十数人で運営をしているが、「被災から時間がたつと、ボランティアの数も減るかもしれない」と心配する。



広島大学院の小平光子教授(母性看護学)は「行政のバックアップがあれば、ボランティアも活動を続けやすい。開催場所の提供や保健師たち専門家の派遣など、官民で連携すべきです」と話す。「大切な人を失った場合はもちろん、慣れ親しんだ風景を失うことも大きなショックになる」と指摘。時間の経過とともに喪失感が強まるケースもあるという。

母親たちが被災前に通っていた子育てサロンが再開するなど、復旧には半年、1年以上の時間がかかる地域もあるとみられる。大平教授は「以前のような日常を取り戻すまで、たわいのない会話をしながら、話したい時にづらい気持ちも吐き出せる場所が身近に必要です」と強調する。

一方で、被災した親子向けの催しや集う場があっても、足を運びにくい人もいる。ひろしまNPOセンターの香川恭子さん(56)は、4年前の広島土砂災害で交流スペースを開いた経験から「自分たちだけ気分転換するのは気が引けると、外出を控える親は少なくない」と語る。地域で呼び掛けてみんなで外出したり、支援者が子育て世帯の家を訪ねたりするなど、積極的なアプローチが必要と呼びかけている。



「安浦子どもひろば たけちまる」に集う割方さん親子(左端)と母親たち
(呉市安浦町)

広島県がHPに情報公開

広島県は、被災地の子育て支援活動の情報をホームページ(HP)で公開している。住民や企業、NPO法人などが、託児や子どもの居場所づくりなどに取り組む。「イクちゃん子ども応援プロジェクト」で検索すると、それぞれの日時や場所などが分かる。

小さな新子さんに
この度の最高賞状をお贈りの方に、心よりお礼申し上げます。
ぬれた手でもお持ちすれば、少しの間お手を乾燥いたします。
小さな方ですが、お役に立てれば幸いです。
ポンと鼻をくぐって。

平成30年7月23日(金)午後1時開演 9:30~14:00の席 (全18役付)
 公演料金 前座 全席指定 1,500円
 本座 全席指定 2,500円
 全席指定 3,500円

[illegible]

OPEN
9:00
CLOSE
16:00

この上 2 階

お気軽に

どうも

母子のニーズに沿った物資も



LINEネットワーク250名登録



被災母子がイベントで笑顔に

宇和島市 NPO 団体
おかあさんといっしょ 主催
被災地スマイルプロジェクト
in サブライムホール

子どもたちへの希望のプレゼント
木のぬこちゃん・木の玉ボール他

宇和島出身の絵本作家
ありま三菜さんの
チャリティグッズ販売

PRAY
FOR
UWAJIMA

取寄出しバッキング

お父さんお母さんへの癒やし
リラクゼーションコーナー

西田かんを応援します!!

8月12日(日)
10:00~15:00
参加費: 無料

被災地以外のご来場の際は入場料を徴しお気持ちの募金を義援金とさせていただきます

子どもたち、そしてお父さんお母さんもみんなが笑顔になりますように
ぜひ皆様でお越しくださいませ

協力 国際協力 NGO ジョイセフ

~お問合せ~

宇和島市 NPO 団体 おかあさんといっしょ 代表 泉 恵

SUBLIME HALL
〒798-0060 愛媛県宇和島市丸之内 3-6-20 Tel.0895(23)8888



過去の震災支援経験が弊害？！

- 企業が初期段階で、被災行政に大量の物資と寄付を送る→段階に応じた継続支援不可
- 被災者ニーズとのミスマッチで供給過多の物資、保管費かさみ「第2の災害」に
- ジェンダー、多様性の視点欠如
→（行政は公平性重視。「ご自由に」不可）
- メディアの報道の偏りによる支援格差

誰も取り残さない支援とは__

性別、性自認、年齢、障害の有無や種類・程度、
国籍や母語の違い、家族構成や就労状況などにより、
困難はそれぞれ違い、必要とする対策・支援は異なる

担い手には、**当事者性**を

個人や地域が持っている
「復元・回復力」を高める

個人や地域が持っている
社会環境など、被災地を取り巻く幅広い要因
によって発生していることが多い

国籍・母語は？

子育て中？

家族構成は？

必要な家族は？

仕事の有無・資産は？

年齢は？

障害の有無・種類は？

暴力を受けてる？





ジョイセフ
JOICFP

世界の妊産婦と女性を守る